

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2022年度 助成者)

作成日 2022年 9月 7日

氏名 (フリガナ)	菅村恵利(スガムラエリ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2022年8月15日(月)～8月20日(土)
大学名	愛知医科大学
学年	5年
<p>まず初めに、このような貴重な機会を頂きまして誠にありがとうございました。5日間という短い期間ではありましたが、大変充実した時間を過ごすことが出来ました。</p> <p>プログラムの志望理由は、二つありました。一つ目は、海外の医療に興味があるためです。私の理想とする医師像は、日本人の患者さんだけでなく、日本語を母国語としない患者さんにも頼られる医師になるということです。そのためには、英語力の向上かつ、海外と日本の医療の違いを学ぶことが大切であると考えています。そのため、今回のプログラム内容はとても魅力に感じました。二つ目は、来年予定している海外医療実習をよりよいものにするためです。海外で医療を学ぶにあたって、自分に何が足りなく、何を準備していけばよいかこのプログラムを通して知りたいと思いました。</p> <p>プログラムの内容としては、主に、英語での問診や PBL、ハワイの医師の先生方の講義がありました。英語での問診や PBL は、英語力かつ医療知識の両方が求められる場であったため、かなり難易度が高いものではありましたが、その分学びが多く、また自分の弱点を知ることが出来ました。その中でも特に、自分の医療英単語のボキャブラリーの少なさを痛感しました。日々の実習やテストを言い訳に、医療英語の勉強を怠っていた自分が恥ずかしくなったと同時に、来年に予定している海外医療実習までには必ずマスターしようと火が付きました。遅いスタートとなりましたが、このプログラムに参加しなければ後回しにし続けてしまっていたと思うので、とても良い機会となりました。また、ハワイ大学の医学生とペアとなり、問診の練習を行う時間もありました。どんな疾患か想定しながら、それに沿った質問をしていくのですが、アメリカの医学生は、授業の一環で PBL を多く行っているため、日本の医学生と比べ、鑑別疾患などを考える力が身についていると思いました。そのため、彼らからのフィードバックはとても参考になりました。また、教育の違いというものもありますが、同世代の医学生がここまで考えられるのかということに驚き、医学に対する勉強のモチベーションがとても上がりました。アメリカでご活躍されている日本人の先生方の講義は、興味深いものばかりで、自分の知らない世界を知ることができました。異国の地で医師となり地位を得ている先生方の姿は、かつこよく、挑戦することの素晴らしさを教えていただきました。将来のキャリアについての相談にも親身に乘って下さり、また、将来アメリカでのレジデントに挑戦してみたくなった時には力になって下さるというお言葉も頂きました。そのような先生方に知り合うことは、日本ではなかなかできない事なので、とても貴重なものとなりました。そして、素敵な夢を持つ同世代の医学生と知り合えたことも、大きな収穫となりました。コロナが流行してしまい、新しい環境に行く機会も無く、慣れ親しんだ友人と過ごす日々だった為、普段では知り合えないような同世代と出会い、目標に向かって実際に行動している姿を見て、かなり刺激されました。</p> <p>多くの学び、発見、素敵な出会いがあり、今回このプログラムに参加させて頂けてよかったと、心の底から思っております。</p> <p>最後になりましたが、日米医学医療交流財団の皆様、このプログラムに携わって下さった方々、そして、助成をしてくださった小林恵一先生に大変感謝し、今回学んだこと、吸収したことを活かせるよう精進して参ります。本当にありがとうございました。</p>	